

議案に対する質 疑

有限会社栗の里なかやまの経営状況について

問

遊栗館が二年間で約一千万円の赤字となり今後も赤字が予想されるが、今後どのような取組、改善していく考えか。市の直営となる方向性とおわせて考えを伺いたい。

また、花の森ホテルも市より管理委託料を支出しているが、収支が非常に見えずらく改善すべきではないか。

答

遊栗館については、非常に厳しい状況が続いており、栗の里なかやまが五年間の指定管理予定であったが、一年間で辞退の申し出があった。今後、最も厳しい状況は予想されるが、四月より三カ月を目標に市が管理し、栗の里全体を見渡した中で、経営ができる民間企業への管理委託を目指す。鋭意努力していきたい。花の森ホテルの収支に関し

ては、管理委託料から市への収入を差し引くと単純には約一千五百万円の赤字となる。収支が見えづらい点に関しては、十九年度事業が一月より動いているので、三月までと四月からは別の決算書が出てくることになっており、十九年四月以降は収支がはっきりと見える決算報告書になる。



遊栗館

なかやま交流促進センターの指定管理者の指定について

問

- 一・応募は何社あったのか。
- 二・事業計画はどうなのか。
- 三・従業員の身分保障は。
- 四・管理委託料はどうなるか。

答

五・決定した理由は何か。

- 一・山陽物産株式会社・芙蓉メンテナンス株式会社・有限会社栗の里なかやまの三社である。
- 二・高齢者優待宿泊の推進、合宿の誘致、ゴルフツアー等によりホテルの稼働率を回復させる。

また、人員の適正配置により、人件費の縮減を図る。

三・基本的には継続雇用である。

四・十九年度は一千万円、以降は減額の方で毎年度協議をしながら決定する。

五・今まで以上のサービス、経費の削減、雇用の確保とホ



なかやま交流促進センター
(花の森ホテル)

テル経営に対する意欲、経験が他社よりも優れていた。

市道路線の認定について

問

- 一・現在の道路幅員について
- 二・市街地の中で二メートル程度の道を市道にするが、認定方針が変わったのか。今回の市道認定を提案した理由を問う。

答

- 一・幅員二メートルの農道である。
- 二・この区間は、伊予インター関連、国道56号の改良事業である。

JR及び市道下吾川上野線と立体交差する計画であり、跨線橋を架設するため工事用道路を両側に設置し、工事完了後、今回の市道認定を条件に工事用道路を幅員五メートルで整備して、機能回復を図りたいとの国土交通省の要望で今回提案した。



市道認定された旧農道

平成十九年度

一般会計予算

基金の繰入れについて

問

財政調整基金から約八億円も繰り入れているが、今後も毎年同様の金額を繰り入れる必要があるのか。

地方交付税も減ってくるというところであるが、全体的なバランスに立った上での今後の見通しはどうなのか。

答

税源移譲が今後行われると本来ならば税が増える分、地方贈与税・交付税は下がると